

令和5年（2023年）

第9回大阪狭山市教育委員会
定例会議議事録

令和5年（2023年）9月28日 開催

大阪狭山市教育委員会

第9回大阪狭山市教育委員会定例会議議事録

令和5年(2023年)9月28日(木)

午前10時 開議

市役所3階 委員会室

出席委員(5名)

竹谷 好弘	教育長
山田 順久	教育長職務代理者
田川 宜子	委員
河合 洋次	委員
井上 寿美	委員

出席事務局の職員

山田 裕洋	教育部長
寺下 憲志	教育監
山本 泰士	こども政策部長
浜口 亮	教育部次長兼教育総務グループ課長
塚本 浩二	こども政策部次長兼保育・教育グループ課長
中本 真司	教育部副理事兼学校教育グループ課長
東野 貞信	社会教育グループ課長
神楽所保則	教育施設グループ課長
森口 健次	歴史文化グループ課長
井上 知久	子育て支援グループ課長
岩間かおり	放課後こども支援グループ課長

書記

安達奈津芽	教育総務グループ主幹
山田 修平	教育総務グループ主任

議事日程

開会

教育長活動報告

議事

- 日程第 1 議案第16号 令和 5 年度大阪狭山市教育委員会文化教育功労者表彰被表彰者の決定について
- 日程第 2 報告第26号 令和 4 年度（2022年度）大阪狭山市一般会計決算（教育委員会関係）について
- 日程第 3 報告第27号 令和 5 年度全国学力・学習状況調査における結果と分析の概要について

閉会

各グループの報告事項

教育部長（山田裕洋）

それでは、定刻になりましたので、教育長、よろしくお願いたします。

教育長（竹谷好弘）

改めまして、おはようございます。

令和5年第9回教育委員会定例会議を開会いたします。

本日の出席委員数は定足数に達しておりますので、会議成立しております。ご報告いたします。

議事録の署名委員は、規則によりまして、山田教育長職務代理者と井上委員を指名いたします。

教育長活動報告でございます。

議事日程を1ページお開きいただきまして、9月、議会月でございます。

8月31日に本会議初日でございます。その横に納車式というのが書いてありますが、これは学校配備の単車がございます、これは事務連絡等で使っておったものですけれども、ちょっと管理状態が悪く、廃車寸前の状況でございます。これをホンダ学園さんのご厚意で見事復活をいただいたということで、この納車式を行いました。メディア等にも取り上げられております。後ほどご報告をさせていただきたいと思ひます。

9月4日、表彰の審査会をしております。本日議案としてご審議いただきます。事前審査を行っております。

9月11日、12日は代表、個人の質問がございました。議会の教育関連の質問に答弁をしております。これも後ほどご報告いたします。

一番下段、9月27日、本会議が終了しております。

その他各種会議に参加しております。

以上でございます。よろしいでしょうか。

それでは、早速ですけれども、議事に移りた

いと思ひます。

本日の議案ですが、日程第1、議案第16号、令和5年度大阪狭山市教育委員会文化教育功労者表彰被表彰者の決定についてを議題といたします。

担当に説明を求めます。

担当。

教育部次長兼教育総務グループ課長（浜口亮）

それでは、日程第1、議案第16号、令和5年度大阪狭山市教育委員会文化教育功労者表彰被表彰者の決定についてご説明いたします。

資料は、1ページから3ページでございます。

また、資料とは別に、お手元に表彰事務取扱要領をお配りしておりますので、そちらの別表も併せてご覧いただきたいと思います。

今年度の文化教育功労者表彰につきましては、教育委員会表彰規程第5条に基づく表彰選考会を9月8日に開催し、学校や各種団体から頂きました推薦書を基に慎重に審議いたしました結果、資料にございます8名の方を候補者として提案するものでございます。

次に、候補者の推薦理由を簡単にご説明させていただきます。

まず、2ページの1番の方は、選考基準第1号-1、学校教育活動において、文化、スポーツ等の全国規模の発表会、大会等に出場した者に該当するもので、法務省全国人権擁護委員連合会主催の第41回全国中学生人権作文コンテスト中央大会におきまして、全国76万8,623人の応募の中から法務省人権擁護局長賞を受賞されました。

続きまして、2番の方は、選考基準第2号-1、教育上特に有効な研究または工夫を考案した者に該当するもので、支援教育の専門性を生かして市全体の支援教育の充実を図るとともに、授業改善推進加配担当として全ての児童が分かる授業づくりを進め、本市の学校教育の振興に

大いに貢献されておられます。

続きまして、3番から3ページの6番までの4名の方につきましては、選考基準第3号-1、文化、スポーツ活動等において関係団体の育成や地域の振興等、10年以上にわたり顕著な功績を収められた者に該当するもので、まず、3番の方につきましては、平成5年から大阪狭山市文化振興事業団で理事、顧問を歴任され、平成17年からは常務理事に就任し、地域文化の発展に寄与し、本市の文化活動の推進に大いに貢献されておられます。

4番の方は、平成19年から大阪狭山陶芸協会の事務局を担われ、平成29年からは会長に就任し、本市の市民文化活動の推進に大いに貢献されておられます。

5番の方は、平成28年から大阪狭山市邦楽邦舞鑑賞会の会長に就任され、本市の市民文化活動推進に大いに貢献されておられます。

3ページの6番の方につきましては、平成25年5月から現在に至るまで青少年指導員として各種事業や啓発活動に尽力され、青少年の健全育成に大いに貢献されておられます。

続きまして、7番の方は、選考基準第3号-2、本部団体の役員として5年以上にわたり顕著な功績を収めた者に該当するもので、平成30年から現在に至るまで、大阪狭山市テニス連盟の理事として連盟の運営に尽力され、本市のスポーツ活動の推進に大いに貢献されておられます。

最後に、8番の方は、選考基準第3号-3、公的機関等が開催した文化、スポーツの全国規模大会で入賞した者に該当するもので、令和4年12月に開催されました高円宮妃杯JFA第27回全日本U-15女子サッカー選手権大会におきまして、JFAアカデミー福島メンバーとして出場し、優勝されました。

今年度は、以上8名の方を候補者として選考

いたしましたので、ご審議いただきますようよろしくお願いいたします。

教育長（竹谷好弘）

ただいまの説明につきまして、何かご質問等ございませんでしょうか。

ご質問等がないようでございます。本案を原案のとおり可決することにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

ご異議なしと認めます。

本案については承認されました。

続きまして、日程第2、報告第26号、令和4年度（2022年度）大阪狭山市一般会計決算（教育委員会関係）についてを議題といたします。

担当に説明を求めます。

担当。

教育部次長兼教育総務グループ課長（浜口亮）

それでは、日程第2、報告第26号、令和4年度（2022年度）大阪狭山市一般会計決算（教育委員会関係）につきましてご説明させていただきます。

資料につきましては、4ページから6ページでございます。

資料に基づきまして、令和4年度決算の概要につきましてご説明させていただきます。

まず、5ページのほうをご覧ください。

一般会計でございますが、歳入総額では、前年度より約7,079万円増の234億6,042万2,351円となっております。歳出総額では、前年度より1億3,754万円増の226億9,280万8,839円となっております。

増減率では、歳入でプラス0.3%、歳出ではプラス0.6%となっており、歳入歳出差引きでは8.0%のマイナスとなっております。

続きまして、教育費の歳出でございますが、こちらにつきましては24億3,706万5,914円となっており、前年度よりプラス8.4%、1億8,956万9,775円の増となっております。

続きまして、科目別の主な増減要因につきましてご説明させていただきます。

教育総務費では、前年度より約1,753万円の増となっております。そのうち、教育委員会費が約1,101万2,000円の増となっておりますが、これは主に本年2月に策定いたしました学校園の適正規模・適正配置に関する基本方針に関し、委員報酬及び策定支援業務委託料の支出によるものが要因となっており、その他、教育管理費におきまして、時間外勤務手当等職員人件費の増加等によりまして約414万6,000円増加したことが主な要因となっております。

次に、小学校費につきましては、前年度より約8,022万円の増となっておりますが、これは小学校振興費におきまして、子育て世帯への支援策の一環といたしまして就学援助等臨時特別給付金支給事業を実施したことにより約798万8,000円の増、また、小学校整備費におきまして、東小学校及び北小学校の増築工事に係る実施設計業務の委託、また、南第一小学校及び南第三小学校の屋上防水工事の実施などにより7,466万9,000円増加したことが主な要因となっております。

次に、中学校費につきましては、前年度より約83万2,000円増となっておりますが、これは中学校整備費におきまして、南中学校の長寿命化大規模改造工事に係る実施設計業務委託の完了により約1,339万2,000円減少したのに対しまして、中学校管理費におきまして、主に光熱水費の高騰により約455万5,000円の増、また、中学校振興費におきまして、小学校と同様に就学援助等臨時特別給付金支給事業の実施などにより約966万9,000円の増となったことが主な要因となっております。

次に、幼稚園費につきましては、前年度より約2,242万円の減となっておりますが、これは主に幼稚園費で、職員人件費の減少等によりま

して約2,140万8,000円の減となっていることが主な要因となっております。

次に、社会教育費につきましては、約1,290万円の増となっておりますが、社会教育総務費、郷土資料館費、文化財保護費でそれぞれ職員人件費等の減少により減となっておりますが、公民館費におきまして、公民館非常用自家発電設備改修工事及び消火管改修工事の実施等によりまして2,206万9,000円の増となっていることが主な要因となっております。

次に、保健体育費につきましては、約1億50万円の増となっておりますが、これは社会体育施設管理費で、総合体育館熱中症対策工事の実施等により約3,697万7,000円の増、また、学校給食管理費におきまして、学校給食費の無償化を実施するため、小・中学校給食費補助金の交付等によりまして約5,235万8,000円の増となっていることが主な要因となっております。

続きまして、資料6ページの民生費のほうをご覧ください。

歳出総額は106億8,329万9,951円となっており、そのうち、教育委員会関係分といたしましては39億8,233万4,551円であり、前年度より15%、7億25万6,633円の減となっております。

続きまして、科目別の主な増減要因につきましてご説明させていただきます。

まず、児童福祉総務費では、夢の実保育園新設に係る民間保育園等施設整備費補助金及び出産・子育て応援事業の実施等によりまして、約2億7,956万5,000円の増となっておりますが、児童措置費で児童手当及び児童扶養手当の支給件数の減少等により約5,495万4,000円、また、児童福祉施設費で職員人件費の減少等により約754万6,000円、放課後児童健全育成事業費で放課後児童会運営業務委託料の減少等により約621万2,000円、子育て世帯への臨時特別給付金給付事業費が約9億3,235万8,000円の減となっ

ていることが減少の主な要因となっております。

以上、大変簡単な説明ではございますが、教育委員会関係の一般会計決算報告とさせていただきます。

なお、決算状況の詳細につきましてご質問等がございましたら、各担当グループのほうからご説明させていただきますのでよろしくお願いいたします。

教育長（竹谷好弘）

ただいまの説明につきまして、何かご質問等ありますでしょうか。よろしいですか。

それでは、本案を原案のとおり可決することにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

ご異議なしと認めます。

本案については承認されました。

続きまして、日程第3、報告第27号、令和5年度全国学力・学習状況調査における結果と分析の概要についてを議題といたします。

担当に説明を求めます。

担当。

教育部副理事兼学校教育グループ課長（中本真司）

日程第3、報告第27号、令和5年度全国学力・学習状況調査における結果と分析の概要についてご説明させていただきます。

着座にて失礼いたします。

お手元に資料をお配りしておりますので、そちらをご覧ください。

令和5年4月18日火曜日に小学校6年生、中学校3年生を対象に実施された全国学力・学習状況調査の結果分析となっております。

1ページから3ページにかけて、調査の概要や調査内容、調査結果の取扱い、分析方法について記載しております。

4ページをご覧ください。

4ページから5ページにおいて、小学校の学

力調査の結果概要について記載しております。

小学校では、国語の平均正答率は全国をやや下回っていましたが、算数は全国平均を上回る結果となっております。

続きまして、6ページから8ページにつきましては、中学校の学力調査の結果概要について記載しております。

中学校では、国語で全国平均をやや下回りました。数学の平均正答率は全国平均とほぼ同じ結果でした。また、英語の平均正答率は全国平均を上回る結果となりました。

続きまして、9ページをご覧ください。

9ページからは、質問紙調査の中から幾つかの項目について結果を掲載しております。

まず、自分自身や学校生活状況について、「自分には、よいところがあると思いますか」や「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の質問について肯定的な回答が良好な状況であることから、教員が子どもたちのよいところを認めることで子どもたちの自己肯定感の高まりにつながっていると考えております。

一方で、「将来の夢や目標を持っていますか」、「学校に行くのは楽しいと思いますか」、「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」の質問については、肯定的な回答が全国平均を下回っており、課題が残る結果となりました。

11ページは、学習についての質問となっております。

の「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」の質問について肯定的な回答をした児童・生徒が全国と平均して少なく、一方、の「学校の授業時間以外に、ふだん、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の質問では、2時間以上勉強している子どもが多い傾向が見られます。

この2つの結果から、一定学校以外で学習する習慣や環境はありますが、自主的に計画を立てることに課題が見られることが分かりました。主体的な学びを意識した取組が必要と感じております。

また、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」の質問について、肯定的な回答が全国平均と比較しても少なく、今後は9年間の系統立てた地域学習を進め、地域とともにある学校づくりを進めていきたいと考えております。

これらの結果については、市のホームページ上で公開する予定にしております。各学校の分析についても、調査の分析結果と今後の取組の方策をホームページに掲載する予定でございます。こちらの結果分析を有効に活用いたしまして、今後の学力向上につなげてまいりたいと考えております。

以上、簡単な説明ではございますが、ご報告させていただきます。

教育長（竹谷好弘）

ただいまの説明につきまして、何かご意見、ご質問等ございますでしょうか。

河合委員。

教育委員（河合洋次）

令和4年度と令和3年度には平日のテレビゲームの時間についてのアンケートがあったと思うんですけども、今年度はなかったんですか。

教育長（竹谷好弘）

はい、担当。

教育部副理事兼学校教育グループ課長（中本真司）

今年度からその質問はなくなっております。

教育長（竹谷好弘）

河合委員。

教育委員（河合洋次）

大阪狭山市はテレビゲームの時間が長かった

んですよ。あのテレビゲームの時間というのは、本年度はアンケートがないと分からないですよ。

教育長（竹谷好弘）

担当。

教育部副理事兼学校教育グループ課長（中本真司）

そうですね。現時点でまだアンケートは取っておりませんが、各学校でSNSについての研修であったりとか、講師を呼んでの取組というのはやっておりますので、一定見ることはできるのかなと思っております。

教育長（竹谷好弘）

河合委員。

教育委員（河合洋次）

対策は取られているということですかね。テレビゲームの時間が長くなっていることについて。

教育長（竹谷好弘）

はい、担当。

教育部副理事兼学校教育グループ課長（中本真司）

一応それが数年前からやはり課題として、この毎回の全国学力・学習状況調査の結果が出ておりましたので、それを各学校は意識して取り組んでおるところです。

教育委員（河合洋次）

ありがとうございます。大丈夫です。

教育長（竹谷好弘）

ほかにご意見、ご質問等ございませんでしょうか。

山田委員。

教育長職務代理人（山田順久）

小学校の国語で書くことというのが、多分問題もかなり難しかったん違うかなと思うんですけども。府とか全国平均に比べて、これはやや低くなっていると思うんですけども、その

あたり、各学校で分析されていると思うんですけども、どういうところが原因かというのは。

教育長（竹谷好弘）

はい、担当。

教育部副理事兼学校教育グループ課長（中本真司）

失礼いたします。書くことについてですが、そもそも読む、読み取るというところに課題がありまして、問題の質問の趣旨をしっかりと読み取れていないために書けないという結果になっていると考えております。

教育長（竹谷好弘）

山田委員。

教育委員（山田順久）

中学校の国語では書くことはそう変わらないですけども、平均よりか上になっていて、小学校のほうではちょっと低くなっている。昨年度、小学校全体は府の平均より国語はよかったと思うんですけども、その中で書くところはちょっと課題やったと思いますので、そこらあたり、また各学校のほうでも分析していただいて指導にぜひ生かしていただいたらなというふうに思います。

特に今、タブレットとかを活用されていると思うので、本来の書く力というのがどうかなというのを若干危惧しておりますので、よろしく願いしておきます。

教育長（竹谷好弘）

井上委員。

教育委員（井上寿美）

先ほど9ページのところで、小学生は先生方がよいところを認めておられてよいところがあるというふうに結果につながっているというふうにお話ししてくださったんですが、中学生のところを見ると、先生方がよいところを認めるというのは大阪府、全国平均よりも高い。でも、

「よいところがあると思いますか」というのは低くなっているという、この関係はどんなふうに分けておられるのか教えていただけたらと思います。

教育長（竹谷好弘）

はい、担当。

教育部副理事兼学校教育グループ課長（中本真司）

中学校の教員のほうも、やはり子どもたちの自己肯定感というものをすごく大事と考えておりますので、褒めるということはすごく意識づいてきているとは思いますが、ただ、それが中学生自身に自分にはいいところがあるんだというところになかなか結果として大きく結びついていないというのは、おっしゃるとおりの課題なのかなと思いますが、やはりそこはもう授業の中だけではなく、日頃のそれ以外での活動の中でももっと子どもたちと話す機会の中で褒めるということ、本人の頑張っているところを認めるという機会をやっぱりもう少し増やしていくべきなのかなと感じております。

教育長（竹谷好弘）

井上委員。

教育委員（井上寿美）

という分析をされているということですよ。ありがとうございます。

教育長（竹谷好弘）

ほかに。

寺下教育監。

教育監（寺下憲志）

なかなかやっぱり中学生の自己肯定感を上げていくというのが難しく、特に子どもたちに単に、あ、それすごいねって。小学生は単純によう頑張っているなど言ったらありがたいってすごい喜ぶんですけども、中学生はやっぱり物を斜めに見てしまうというところもどうしてもあって、その褒め方というところをやっぱり

考えていけないといけないし、あとはタイミングですね。いかにその子の小さな動きを見つけてそこを評価するかということなので、日常の子どもたちにいかに寄り添っていくかというのをかなり課題に思っていて取り組んでいる中学校もあるんです、3つの中で。それを毎年ずっと。学校間でちょっとずつ差がありますので、そこに今、力を入れている中学校がありますので、その中学校の取組もまた検証していきたいなというふうに考えています。

教育長（竹谷好弘）

よろしいですか。

田川委員。

教育委員（田川宜子）

11ページの地域とともにある学校を目指してのところのアンケートなんですけれども、これ、コミュニティ・スクールが始まった学校での伸びですとか地域が、これってあんまり個別には分からないものなんですか。これは多分、市全体をぐっと固めてある。

教育長（竹谷好弘）

寺下教育監。

教育監（寺下憲志）

コミュニティ・スクールをやっている学校のほうが肯定的な回答が多いということをお我々も期待はしていたんですけれども、顕著ではないんですね。確かにコミュニティ・スクールをやっている学校は幾つかありますので、その中ですごく肯定的に回答している学校もあるんですけれども、一方でそこまで成果が出ていない学校もある。この辺はなぜそうなのかというのは今後我々は見えていけないといけないし、市全体で見たときに、これ、一つ考え方として、コロナ禍だったから地域との結びつきがという回答をされた学校もあったんですけれども、でも、それは全国的なことなので、大阪府も言うてみたら日本全国コロナ禍で地域との結びつきは減

っていたはずなのに、とりわけ本市がちょっと課題にあるというところはやっぱり見詰め直さなあかんかなというふうには思っています。

だから、コミュニティ・スクールだからよかったという結果は、今回については出てきておりません。

以上です。

教育長（竹谷好弘）

ほかに何かご意見、ご質問等ございますでしょうか。よろしいですか。

ないようでございますので、本案を原案のとおり可決することにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

ご異議なしと認めます。

本案については承認されました。

本日の議案は以上でございます。

これをもちまして、教育委員会定例会議を閉会いたします。

以上

会議の経過を記載し、その相違ないことを証するため、署名する。

教育委員会教育長

教育委員会教育長職務代理者

教育委員会 委員

教育委員会事務局職員